

はじめに

下水道は、持続可能な循環型社会を構築することにより、快適で安全な市民生活や都市の社会経済活動を支えるとともに、健全な水循環・水環境を形成するという、極めて重要な役割を担っています。

札幌市の下水道は、昭和30年代からの都市の急激な成長にあわせて集中的に整備を行ってきた結果、平成21年度末における普及率は99.7%となっています。8,000kmを超える管路や10箇所の水再生プラザなど、下水道が有する資産は膨大なものとなっており、今後とも、一刻たりとも休止することが許されない下水道の機能をしっかりと維持していかなければなりません。

また、近年、全国各地で発生している局所的集中豪雨や大規模地震への備え、さらには「環境首都」を宣言する札幌市の下水道として、地球温暖化問題への対応にも積極的に取り組んでいかなければなりません。

一方、札幌市の下水道を取り巻く経営環境は、国や地方の厳しい財政状況、少子高齢化の進行、環境に対する市民意識の高まりなど、大きな転換期を迎えています。

このような状況を踏まえると、下水道に求められる多様な役割をしっかりと果たし、次世代に“快適な街”として誇れる社会資本を引き継いでいくことが、私たちに課せられた最大の使命であると考えます。

今回、「次世代へ良好な生活・環境・資産と技術をつなぐ」を基本方針に、今後10年間で札幌市の下水道が目指すべき方向性を示す『札幌市下水道ビジョン2020』を策定いたしました。

当ビジョンの実現に向け、下水道サービスを提供する「公営企業」としての公益性・経済性を発揮させることは勿論のこと、普段意識されることの少ない下水道について市民視点・利用者視点での十分な説明やPRを心がけ、職員一丸となって取り組んでいく所存です。

市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成23年3月

札幌市建設局理事

吉岡 亨

